

廣田硝子 株式会社

認定テーマ名：「江戸硝子」の乳白あぶり出し技法を使った BtoB 市場に向けた新しい照明と食器の開発・販売

1. 認定を目指した経緯

1899年（明治32年）東京に創業した廣田硝子は、まもなく創業120周年を迎える、東京で最も古い硝子メーカーの一つである。戦前は墨田区内に自社の硝子製造工場を持ち、菓子瓶やランプシェード、薬瓶など硝子製品など幅広く手がけていた。現在は、主に江戸硝子・江戸切子の技術を使った硝子食器（タンブラーや酒器など）の企画・製造・販売を行っており、体験工房として直営店「すみだ江戸切子館」を併設させている。

このように、事業を継続できるのは、国内の硝子メーカーの協力があってこそである。しかしながら、その硝子業界の全盛期であった昭和初期には、都内に20数社あった国産硝子メーカーは、現在は3社しかなく、日本全国を見ても5社しかない状況である。このように、硝子業界の縮小が顕著であるため、業界内の良い循環を目指すため、消費者を飽きさせない商品を次々に発売していく必要があると常々考えていた。

そんな折、展示会出展時に本認定事業を知り、地域の方々と連携して活性化し続ける会社でありたいと、中小機構アドバイザーと知り合ったことがきっかけで、本認定事業に着手した。

2. 認定事業の現況

（1）販路開拓の状況

認定事業開始当初から国内外の展示会に出展し、積極的に販路開拓に取り組んだ。国内では、来場者数が多いファッションビジネスの総合展示会である「JFW-IFF」、「インテリアライフスタイル展」や「ギフトショー」、「ホテル&レストランショー」等、ファッションや雑貨領域、食品領域の両面から営業をかけ、出展できる展示会には毎年に出展した。

海外は、中国や台湾等アジア諸国の展示会に出展し、商品の周知に注力した。



写真：「江戸硝子」の乳白あぶり出し技法を使った食器類

（2）販売状況

認定事業開始当初から完成度の高い試作品が出来上がっていたが、照明器具という今までに経験のない領域での販売は、想定以上に事業化までに時間を要した。認定期間の後半、以前からアプローチしていた大手総合商社のカタログに掲載していただけることが決まっからは、想定外の注文が続き、生産が追い付かない状況が続いた。和モダンで優しい印象のペンダントライトは、ダイニングに合わせやすく、今までに見たことの無いデザインであるため、非常に目を惹く商品となった。認定最終年の2017年には、グッドデザイン賞を受賞し、

認知度向上の大きな役割を果たしてくれている。

現在、ペンダントライトは大手総合商社のカタログで販売しており、食器類はセレクトショップや自社オンラインショップ等で販売している。



写真（左）：2017年グッドデザイン受賞商品「ペンダントライト 大正浪漫硝子」

写真（右）：大手企業カタログ掲載商品

* 自社ホームページ → <http://hirota-glass.co.jp/>

* 自社オンラインショップ → <http://hirotaglass.shop-pro.jp/>

3. 今後の展望（見通し）

「ペンダントライト大正浪漫硝子」の認知度は、グッドデザインの受賞や大手企業での販売によって上昇しつつあるものの、市場はまだ限定的であると考えている。認定事業への取り組みによって、念願であった食器以外の商品に取り組むことができ、新たな道筋ができたため、この機会を活かし、シリーズ商品の開発や新たなデザインの開発に取り組んでいく。食器と照明がシリーズ化することによって、ダイニングシーンでの様々な提案が可能となり、総合的な新たなブランドに育成していきたいと考えている。

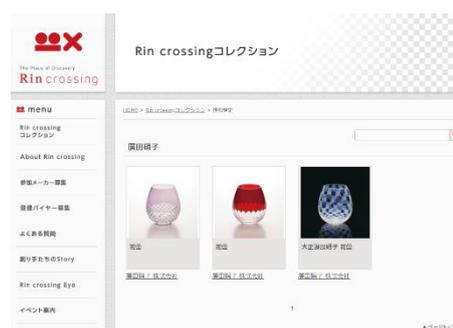
4. 利用した中小機構の支援策

（1）NIPPON MONO ICHI への出展

ギフトショーにおける中小機構の出展枠、中小企業総合展「NIPPON MONO ICHI」に出展し、新規販路開拓を行った。中小機構の出展枠を活用することで、出展コストを抑えられるだけでなく、伝統工芸品や地域の特産品を求める層の来場が見込め、幅広い集客が可能となる。

(2) Rin crossing

中小機構のマッチングサイトや商談会、展示会を通じて、商品の販路開拓を支援するプロジェクト「Rin crossing」に、登録メーカーとして参加されている。現在では、ウェブサイトでの掲載の他、中小機構が運営する「TIP*S」においても商品を展示し、幅広い層への周知を行っている。



出展：Rin crossing ウェブサイト

(3) 海外ビジネス戦略推進支援事業「F/S 支援事業」

地域産業資源の認定後、中小機構のアドバイザーが海外輸出のための「F/S 支援事業」を紹介したことをきっかけに申請され採択となり、1年間の支援を受けられた。認定を受けることによって、事業認知度が向上し、中小機構内のみならず、多方面からのお誘いや紹介が増えたように思われる。その機会を上手くチャンスにされ、活用されたことで更に海外での活動が増加された。

これら中小機構の支援策をはじめ、各種国内外のイベントに積極的に参加したことが事業や商品の認知度向上につながり、継続する努力が成績に好影響を及ぼしたといえる。

5. 企業概要

事業者名	廣田硝子株式会社		
本社所在地	東京都墨田区錦糸 2 - 6 - 5		
ホームページアドレス	http://www.hirota-glass.co.jp		
設立年月	創業 明治 32 年 (1899 年)		
資本金	15,000 千円	従業員数	8 名
売上高	非公開		

※平成 29 年 12 月 31 日現在

6. 認定事業の概要

テーマ名	「江戸硝子」の乳白あぶり出し技法を使った BtoB 市場に向けた新しい照明と食器の開発・販売
テーマの概要	地域産業資源である「江戸硝子」の乳白あぶり出し技法を使った、B to B 向けの和モダン調を強調した照明器具と食器の開発・販売。この「乳白あぶり出し技法」は一時途絶えていたものを、廣田硝子が地域の硝子工場と協力して、約 15 年前に復活させたものである。一つひとつ手作りのため、全く同じものをつくるのが難しいが、優しい風合いが人気を博している。
認定期間	平成 25 年 10 月 16 日～平成 29 年 12 月 31 日